

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

# 東京都感染症週報

2018年第16週  
(4月16日～4月22日)

- \* 2018年4月25日現在の情報により作成しています。  
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。  
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- \* 今週は感染症豆知識「われわれの身近にあるマラリア  
マラリアは熱帯地域だけの病気ではない」も掲載しています。

平成30(2018)年4月26日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター  
健康危機管理情報課

電話：03-3363-3213(直通)  
FAX：03-5332-7365  
e-mail：www@tokyo-eiken.go.jp

## 全数把握対象疾患 報告数（一類～四類） 2018年16週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		13週	14週	15週	16週	年累計	16週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	73	70	52	62	975	339	6,180
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 <sup>*1</sup>							
	中東呼吸器症候群 <sup>*2</sup>							
	鳥インフルエンザ(H5N1)							
	鳥インフルエンザ(H7N9)							
三類	コレラ							2
	細菌性赤痢	2			1	16	1	58
	腸管出血性大腸菌感染症	2	4	3	4	24	26	214
	腸チフス					3		15
	パラチフス				1	4	2	7
四類	E型肝炎		3	3	1	24	13	114
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎	7	9	8	14	103	17	199
	エキノコックス症							1
	黄熱							
	オウム病						2	3
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサヌル森林病							
	Q熱							1
	狂犬病							
	コクシジオイデス症							
	サル痘							
	ジカウイルス感染症							
	重症熱性血小板減少症候群 <sup>*3</sup>							4
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	チクングニア熱							
つつが虫病					4	2	46	
デング熱	2	1			15	2	31	
東部ウマ脳炎								
鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)								

\*1 病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

\*2 病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。

\*3 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		13週	14週	15週	16週	年累計	16週	年累計
四 類	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱						6	11
	日本脳炎							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							1
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	発しんチフス							
	ボツリヌス症					1		2
	マラリア			1		2		13
	野兔病							
	ライム病							
	リッサウイルス感染症							
	リフトバレー熱							
	類鼻疽							
	レジオネラ症			1	1	23	13	300
レプトスピラ症								
ロッキー山紅斑熱								
2018/4/25集計								

### ( 全数把握対象疾患のコメント・一類～五類 )

#### 〈二類感染症〉

**結核 62件** 患者 36件(肺結核 29件、その他の結核 7件)、無症状病原体保有者 25件、疑似症 1件、年齢は10代 4件、20代 7件、30代 6件、40代 9件、50代 8件、60代 8件、70代 5件、80代 11件、90歳以上 4件、推定感染地は国内 47件、韓国 2件、中国 1件、フィリピン 1件、不明 11件であった。

#### 〈三類感染症〉

**細菌性赤痢 1件** 患者、菌種はゾンネ、年齢は30代、推定感染地はペルー、推定感染経路は経口感染であった。  
**腸管出血性大腸菌感染症 4件** 患者 3件、無症状病原体保有者 1件、血清型・毒素型はO157 VT1・VT2 4件、年齢は10歳未満 1件、20代 1件、30代 2件、推定感染地は国内 1件、不明 3件、推定感染経路は経口感染 1件、不明 3件であった。  
**パラチフス 1件** 患者、年齢は20代、推定感染地はインド又はネパール、推定感染経路は経口感染であった。

#### 〈四類感染症〉

**E型肝炎 1件** 患者、年齢は50代、推定感染地は国内、推定感染経路は経口感染であった。  
**A型肝炎 14件** 患者 14件、年齢は20代 4件、30代 5件、40代 3件、50代 2件、推定感染地は国内 14件、推定感染経路は同性間性的接触 9件、経口感染 1件、同性間性的接触又は経口感染 1件、異性間性的接触又は経口感染 1件、性別不明性的接触又は経口感染 1件、不明 1件、A型肝炎ワクチン接種歴は無し 9件、不明 5件であった。  
**レジオネラ症 1件** 病型は肺炎型、年齢は70代、推定感染地は国内、推定感染経路は水系感染(温泉)であった。

#### 〈五類感染症〉

**アメーバ赤痢 4件** 病型は腸管 3件、腸管及び腸管外 1件、年齢は30代 1件、40代 1件、50代 1件、70代 1件、推定感染地は国内 2件、モルディブ 1件、不明 1件、推定感染経路は同性間性的接触 2件、経口感染 1件、不明 1件であった。  
**ウイルス性肝炎 1件** B型、年齢は40代、推定感染地は国内、推定感染経路は同性間性的接触、B型肝炎ワクチン接種歴は無しであった。  
**カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 4件** 患者 4件、病原菌はエンテロバクター・アエロゲネス 1件、エンテロバクター・クロアカ 3件、年齢は60代 2件、70代 2件、推定感染地は国内 4件、推定感染経路は医療器具関連感染 1件(尿路カテーテル)、不明 3件、90日以内の海外渡航歴は無し 4件であった。  
**劇症型溶血性レンサ球菌感染症 2件** 血清群はA群 1件、G群 1件、年齢は60代 1件、70代 1件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は不明 2件であった。

## 全数把握対象疾患 報告数（五類） 2018年16週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		13週	14週	15週	16週	年累計	16週	年累計
五 類 ( 全 数 届 出 )	アメーバ赤痢	6	3	4	4	49	7	237
	ウイルス性肝炎（A型・E型を除く）			1	1	9		44
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	7	6	4	46	23	480
	急性脳炎 <sup>*1</sup>	2	1			28	5	272
	クリプトスポリジウム症					1		6
	クロイツフェルト・ヤコブ病			1		5	2	60
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	1	3	2	37	10	263
	後天性免疫不全症候群	6	7	11	9	119	14	357
	ジアルジア症	2	1		1	9	2	27
	侵襲性インフルエンザ菌感染症		1			6	3	146
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1	1			4		14
	侵襲性肺炎球菌感染症	11	10	10	3	149	47	1,228
	水痘(入院例に限る)			1	1	13	7	109
	先天性風しん症候群							
	梅毒	27	30	20	21	455	79	1,795
	播種性クリプトコックス症	1			1	9	3	48
	破傷風					1	1	19
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症					1		13
	百日咳 <sup>*2</sup>	7	12	6	12	106	72	1,023
風しん				1	1	4	12	
麻しん		1	3	3	8	13	86	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	1			1	2	1	5	

2018/4/25集計

\*1 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

\*2 2018年1月1日より追加指定された。

**後天性免疫不全症候群 9件** AIDS 1件、無症候キャリア 8件、性別は男性 8件、女性 1件、AIDS患者の年齢は20代、無症候キャリアの年齢は20代 2件、30代 3件、40代 1件、50代 2件、推定感染地は国内 5件、ラオス 1件、アメリカ 1件、不明 2件、推定感染経路は性的接触 8件(同性間 4件、異性間 3件、両性間 1件)、不明 1件であった。

**ジアルジア症 1件** 年齢は20代、推定感染地はバングラデシュ又はパキスタン、推定感染経路は経口感染であった。

**侵襲性肺炎球菌感染症 3件** 血清型はすべて検査未実施、年齢は5歳未満 1件、70代 1件、80代 1件、推定感染地は国内 3件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 1件、不明 2件、肺炎球菌ワクチン接種歴は13価4回接種済み 1件、価数不明1回接種済み 2件であった。

**水痘(入院例) 1件** 臨床診断例、年齢は20代、推定感染地は国内、推定感染経路は不明、水痘ワクチン接種歴は無しであった。

**梅毒 21件** 患者 15件(早期顕症梅毒Ⅰ期 7件、早期顕症梅毒Ⅱ期 7件、晩期顕症梅毒 1件)、無症候梅毒 6件、性別は男性 10件、女性 11件、年齢は10代 1件、20代 5件、30代 6件、40代 6件、60代 2件、70代 1件、推定感染地は国内 20件、不明 1件、推定感染経路は性的接触 20件(同性間 4件、異性間 14件、性別不明 2件)、不明 1件であった。

**播種性クリプトコックス症 1件** 患者、年齢は80代、推定感染地は国内、推定感染原因は免疫不全(関節リウマチ、ステロイド・抗リウマチ薬使用)であった。

**百日咳 12件** 年齢は10歳未満 5件、10代 6件、30代 1件、推定感染地は国内 11件、国内又はベトナム 1件、推定感染経路は学校 4件、家族内感染 3件、家族内感染又は学校 2件、不明 3件、百日咳含有ワクチン接種歴は4回接種済み 11件、3回接種済み 1件であった。

**風しん 1件** 検査診断例、年齢は10代、推定感染地はフィリピン、推定感染経路は不明、風しん含有ワクチン接種歴は不明であった。

**麻しん 3件** 検査診断例 1件、臨床診断例 1件、修飾麻しん 1件、遺伝子型はD8 1件、不明 2件、年齢は10代 1件、30代 2件、推定感染地は国内 3件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 1件、接触感染 1件、不明 1件、麻しん含有ワクチン接種歴は無し 1件、不明 2件であった。

**薬剤耐性アシネトバクター感染症 1件** 患者、年齢は70代、推定感染地は国内、推定感染経路は院内感染、90日以内の海外渡航歴は無しであった。

※ 第2週該当分として〔五類〕梅毒 1件の追加報告があった。

※ 第13週該当分として〔五類〕梅毒 3件の追加報告があった。

※ 第14週該当分として〔五類〕カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1件、梅毒 1件の追加報告があった。

※ 第15週該当分として〔四類〕マラリア 1件の追加報告があった。

※ 第15週該当分として〔五類〕アメーバ赤痢 1件、後天性免疫不全症候群 2件、侵襲性肺炎球菌感染症 3件、梅毒 2件の追加報告があった。

# 定点把握対象疾患 報告数 2018年16週

上段: 報告数  
下段: 定点当たり

定点種別	対象疾患	2018年				報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		13週	14週	15週	16週		
小児科	RSウイルス感染症	68	54	90	90	262	264
		0.26	0.21	0.34	0.34		
	咽頭結膜熱	51	27	58	63		
		0.20	0.10	0.22	0.24		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	553	481	617	779		
		2.12	1.86	2.36	2.97		
	感染性胃腸炎	1,184	1,215	1,368	1,701		
		4.54	4.71	5.24	6.49		
	水痘	84	80	74	84		
		0.32	0.31	0.28	0.32		
	手足口病	9	14	15	22		
		0.03	0.05	0.06	0.08		
	伝染性紅斑	48	60	66	64		
		0.18	0.23	0.25	0.24		
突発性発しん	123	118	140	149			
	0.47	0.46	0.54	0.57			
ヘルパンギーナ	1	5	3	1			
	0.00	0.02	0.01	0.00			
流行性耳下腺炎	14	19	19	31			
	0.05	0.07	0.07	0.12			
川崎病 <sup>*1</sup>	2	5	12	4			
	0.01	0.02	0.05	0.02			
不明発しん症 <sup>*1</sup>	8	5	12	13			
	0.03	0.02	0.05	0.05			
インフルエンザ	インフルエンザ <sup>*2</sup>	788	452	358	370	413	419
		1.90	1.10	0.86	0.90		
眼科	急性出血性結膜炎					38	39
	流行性角結膜炎	8	20	21	20		
		0.21	0.53	0.55	0.53		
基幹	細菌性髄膜炎 <sup>*3</sup>	1			2	25	25
		0.04			0.08		
	無菌性髄膜炎	1	2				
		0.04	0.08				
	マイコプラズマ肺炎	3	5		1		
		0.12	0.20		0.04		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	1	2				
	0.04	0.08					
感染性胃腸炎(ロタウイルス) <sup>*4</sup>	7	3	7	8			
	0.28	0.12	0.28	0.32			
インフルエンザ入院	11	6	7	7			
	0.44	0.24	0.28	0.28			
						2018/4/25集計	

\*1 不明発しん症、川崎病 は東京都が独自に指定する疾患である。

\*2 鳥インフルエンザを除く。

\*3 インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

\*4 病原体がロタウイルスであるものに限る。

\* 百日咳は2018年1月1日より五類(定点把握対象)から五類(全数把握対象)に変更

## ( 今週の注目される定点把握対象疾患 )

- ・ 伝染性紅斑は例年並みのレベルですが一部の地域で定点報告数の増加が見られています。
- ・ 感染性胃腸炎は一部の地域で報告数が増加しています。

## 定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2018年16週

	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎	川崎病
～5か月	13			20	2			1			
6～11か月	31	7	1	129	4	1		45			
1歳	37	17	17	233	2	3	3	84			1
2歳	3	13	45	169	1	3	4	10		3	
3歳	5	8	75	159	11		11	5	1	3	
4歳		2	107	135	12	4	8	3		5	1
5歳		2	99	139	11	1	6			5	1
6歳		3	113	94	8	2	7			7	
7歳		3	91	98	7	4	14	1		1	1
8歳			71	85	8	1	4			2	
9歳		2	51	76	7	1	5			3	
10～14歳	1	3	72	160	9	1	2			2	
15～19歳		1	3	25							
20～29歳		2	34	179	2	1					
30～39歳											
40～49歳											
50～59歳											
60～69歳											
70～79歳											
80歳以上											
合計	90	63	779	1,701	84	22	64	149	1	31	4
先週比		5	162	333	10	7	-2	9	-2	12	-8

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。  
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

	小児科	インフルエンザ	眼科		基幹					
	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出 血性結 膜炎	流行性角 結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジ ア肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院
～5か月		2			1					
6～11か月	2	8		1					1	1
1歳	4	17								
2歳	1	18								1
3歳	1	30								
4歳	1	24								
5歳	1	23							1	
6歳	2	25		1					1	1
7歳		15							2	
8歳		7							1	
9歳		8								
10～14歳	1	30		1			1		2	
15～19歳		22		2						
20～29歳		20		2						
30～39歳		26		4						
40～49歳		41		5						
50～59歳		27		3						
60～69歳		16								
70～79歳		5		1	1					1
80歳以上		6								3
合計	13	370		20	2		1		8	7
先週比	1	12		-1	2		1		1	

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。  
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数【保健所別】 2018年16週

	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎	川崎病
千代田			1.33	1.33				0.33			
中央区	0.33		2.67	14.67		0.33		0.33			
みなと	0.50	0.50	2.17	3.33				0.17		0.33	0.17
新宿区	1.50	1.00	2.38	4.75				0.50			0.13
文京		0.25	2.25	4.25				1.00			
台東	1.50	0.25	4.00	12.00		0.25	0.50	2.25		0.50	
墨田区	0.20		1.00	2.40			0.20	0.80		0.20	
江東区	0.56	0.22	3.78	10.78	0.11		0.11	0.22		0.11	
品川区	0.50	0.25	2.00	5.25	0.25		0.25	0.38		0.13	
目黒区	1.20	0.20	2.80	8.60	0.40		0.20	0.40			
大田区	0.42	0.25	4.50	6.08	0.42		0.08	0.67		0.08	
世田谷	0.31	0.19	3.19	6.19	0.31		0.75	0.13			
渋谷区			1.25	4.75	2.25	0.25		0.75			
中野区		0.17	6.00	13.00	0.67	0.17		0.33		0.33	
杉並	0.18		2.18	8.00	0.09		0.36	0.18		0.09	
池袋	1.25		1.00	0.75							
北区	0.14	0.14	1.00	5.43			0.14	0.29			
荒川区	1.75		3.50	9.25			1.75	1.75		0.25	0.25
板橋区	0.10	0.10	1.00	2.10	0.60		0.10	0.90			
練馬区	0.31	0.15	2.77	6.85	0.54	0.69		0.62		0.08	
足立	0.08	0.69	1.46	3.69	1.31	0.08	0.31	0.54		0.15	
葛飾区		0.25	3.25	7.25		0.13		0.13	0.13		
江戸川	0.25	0.33	2.33	5.17	0.42			0.50			
八王子市	0.09	0.27	5.27	11.82	0.18	0.09	0.09	0.82		0.27	
町田市			5.38	9.75	0.75	0.13	0.38	0.25		0.25	
西多摩	0.13	0.25	2.50	3.13	0.13		0.13	0.50		0.13	
南多摩	0.11	0.33	1.89	5.22	0.11	0.22	0.67	0.33		0.22	
多摩立川	0.14		3.43	4.64		0.07	0.14	0.36		0.21	
多摩府中	0.29	0.24	2.24	6.48	0.33	0.05	0.38	1.10		0.10	0.05
多摩小平	0.47	0.40	6.27	9.47	0.20	0.07	0.40	1.00		0.20	
島しょ											
東京都	0.34	0.24	2.97	6.49	0.32	0.08	0.24	0.57	0.00	0.12	0.02

	小児科	インフルエンザ	眼科		基幹					
	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジア 肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院
千代田		0.50								
中央区		0.40		1.00						
みなと		0.78					1.00			
新宿区		0.67		1.00						
文京		0.14								
台東		0.50								
墨田区	0.60	0.88							1.00	
江東区		1.21		1.00						
品川区		1.00								
目黒区		2.00								
大田区	0.25	0.90		0.50						
世田谷	0.06	0.84		0.50					1.00	1.00
渋谷区		0.14		3.00					1.00	
中野区		2.30								
杉並	0.09	1.35							0.50	1.00
池袋		1.43		1.00					1.00	
北区		0.18		1.00						
荒川区		0.29		1.00						
板橋区	0.10	0.44		0.50						
練馬区		0.45		0.50						
足立		1.50		1.50						
葛飾区	0.13	0.15							1.00	
江戸川		1.21								
八王子市		1.47		1.00						
町田市		0.58								
西多摩		0.43								
南多摩		1.21								
多摩立川	0.07	0.67								
多摩府中	0.10	0.91		0.67	0.67					0.67
多摩小平		1.09							0.50	0.50
島しょ										

東京都	0.05	0.90		0.53	0.08		0.04		0.32	0.28
-----	------	------	--	------	------	--	------	--	------	------

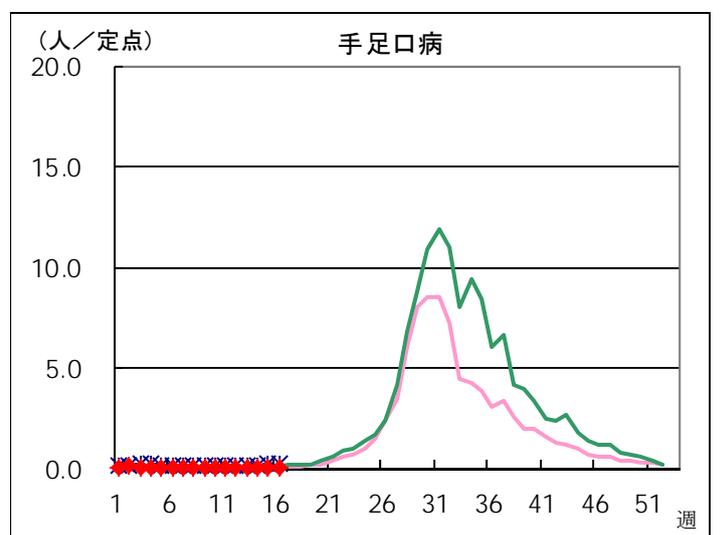
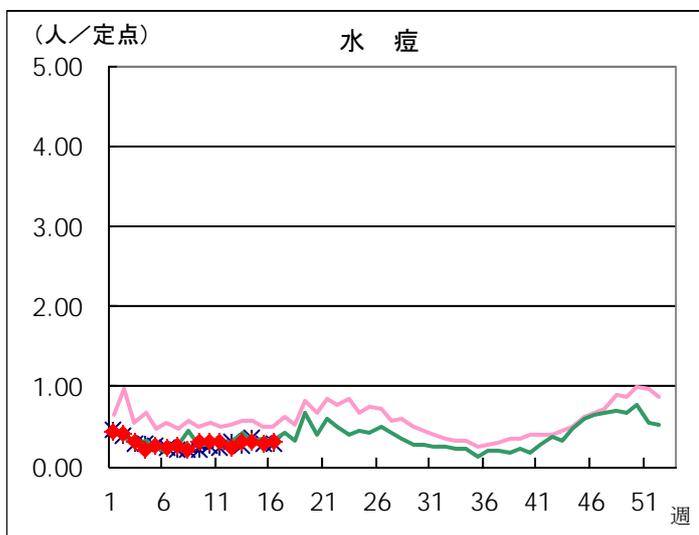
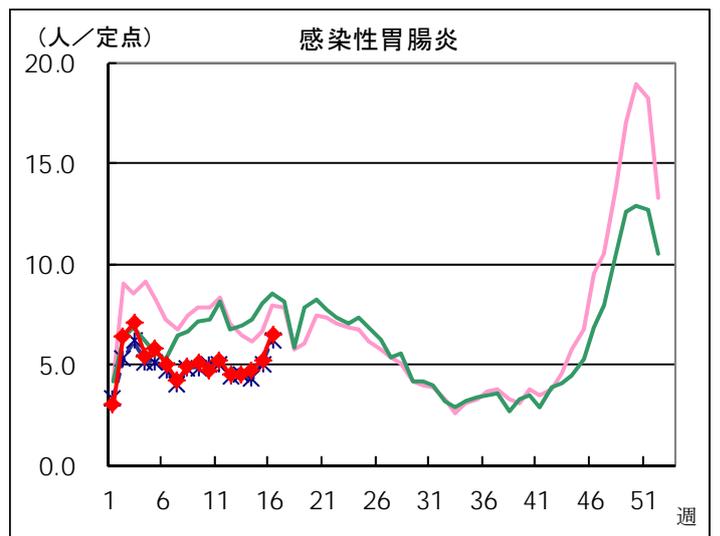
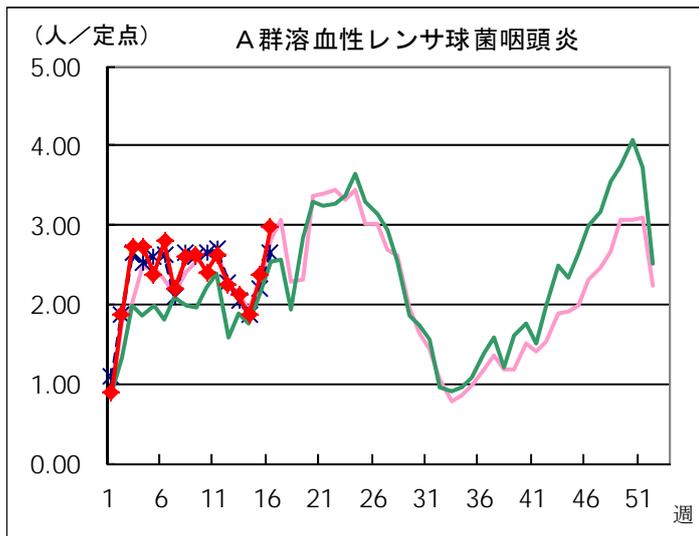
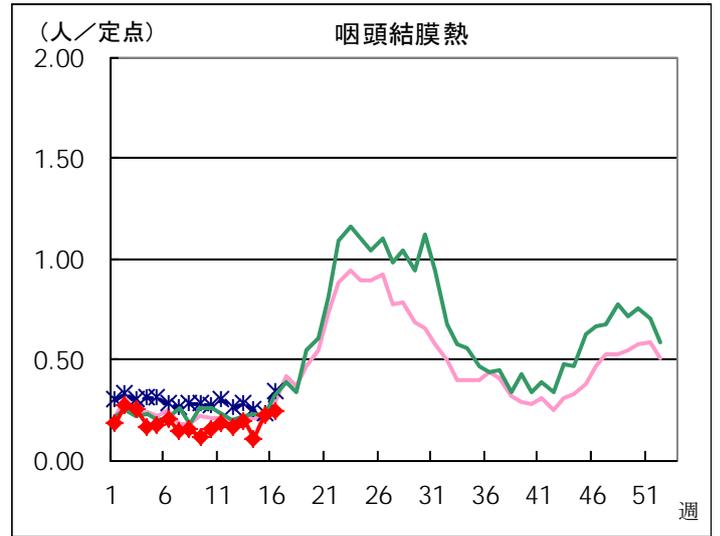
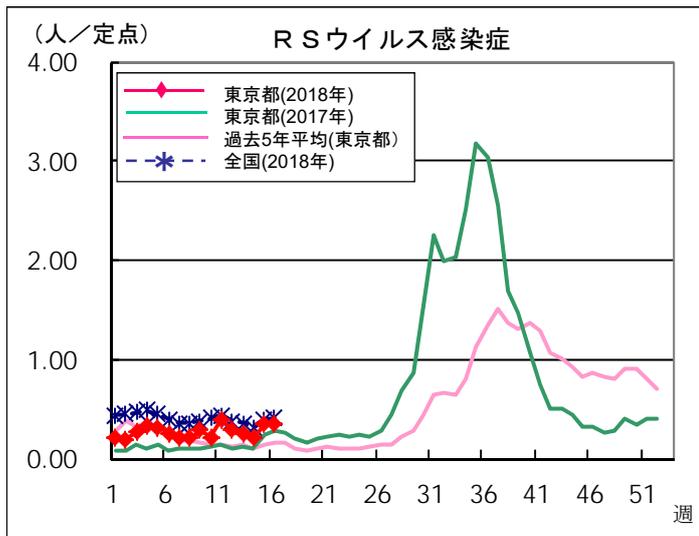
## 定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2018年16週

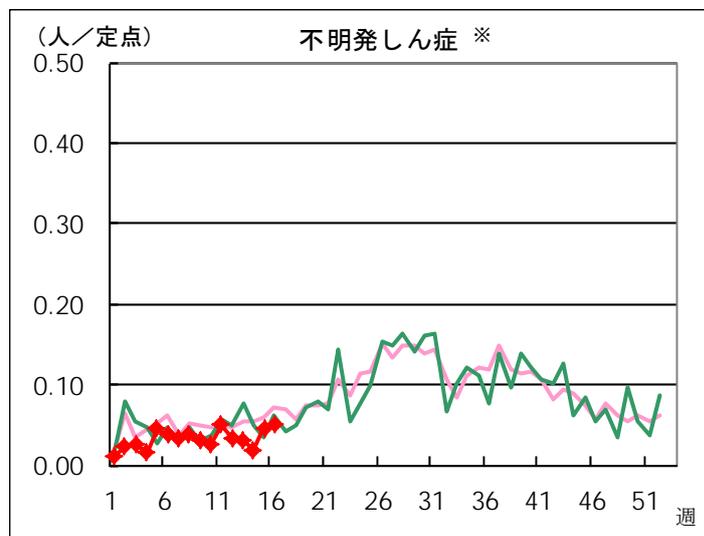
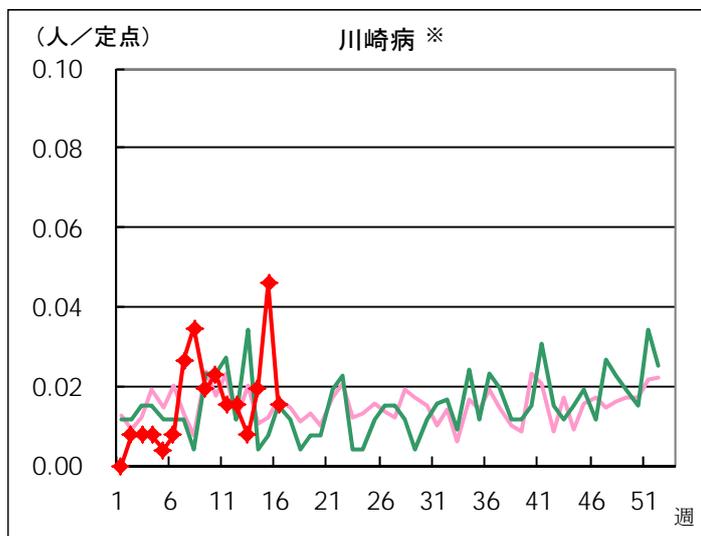
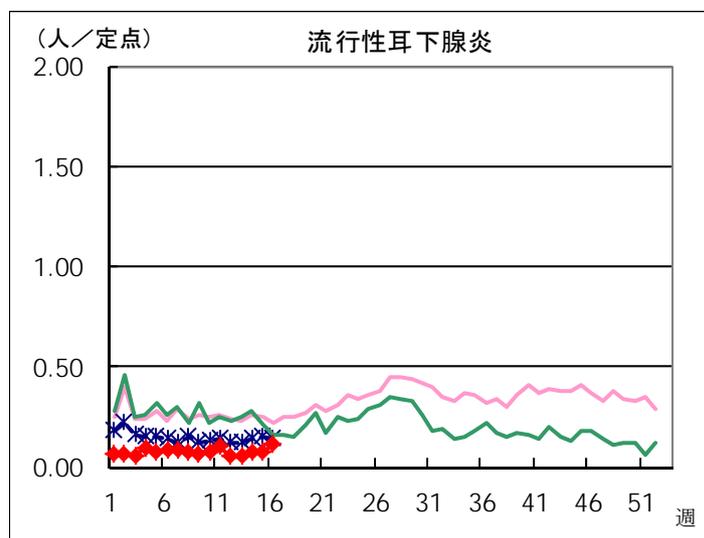
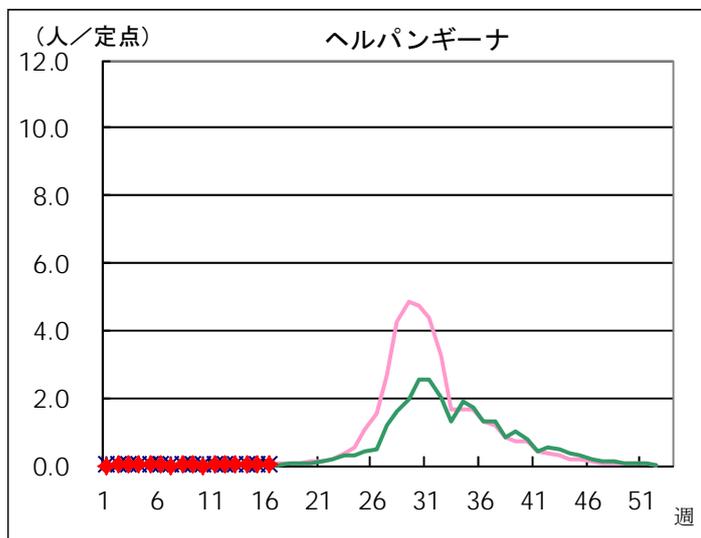
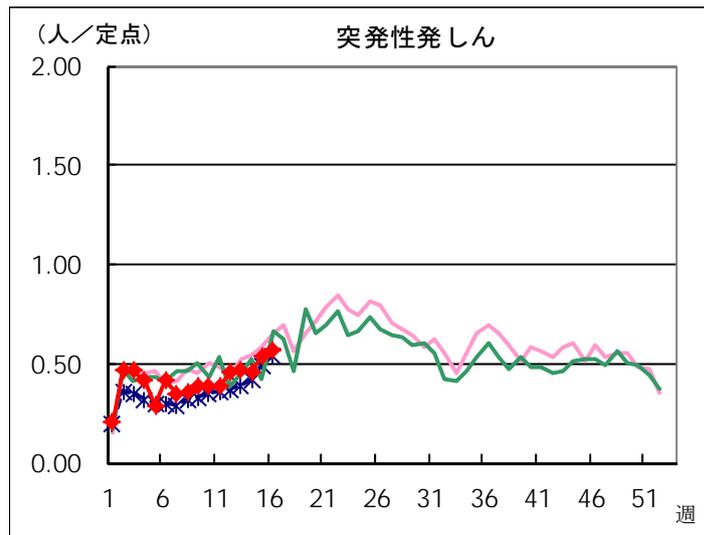
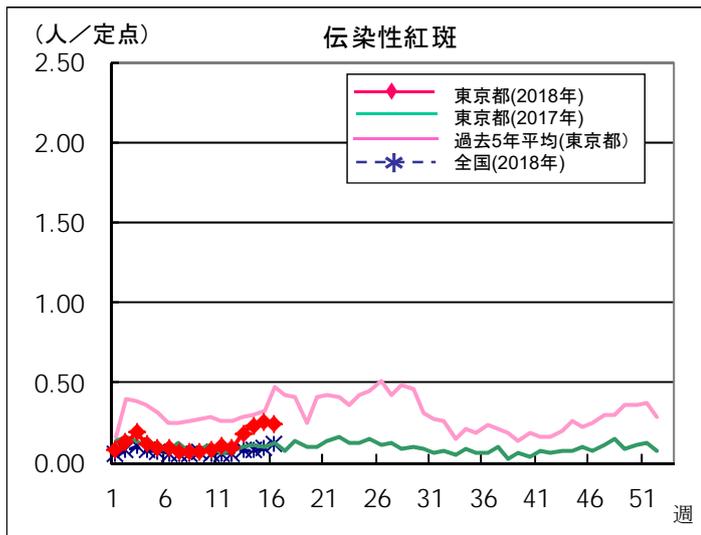
	小児科										
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎	川崎病
千代田			4	4				1			
中央区	1		8	44		1		1			
みなと	3	3	13	20				1		2	1
新宿区	12	8	19	38				4			1
文京		1	9	17				4			
台東	6	1	16	48		1	2	9		2	
墨田区	1		5	12			1	4		1	
江東区	5	2	34	97	1		1	2		1	
品川区	4	2	16	42	2		2	3		1	
目黒区	6	1	14	43	2		1	2			
大田区	5	3	54	73	5		1	8		1	
世田谷	5	3	51	99	5		12	2			
渋谷区			5	19	9	1		3			
中野区		1	36	78	4	1		2		2	
杉並	2		24	88	1		4	2		1	
池袋	5		4	3							
北区	1	1	7	38			1	2			
荒川区	7		14	37			7	7		1	1
板橋区	1	1	10	21	6		1	9			
練馬区	4	2	36	89	7	9		8		1	
足立	1	9	19	48	17	1	4	7		2	
葛飾区		2	26	58		1		1	1		
江戸川	3	4	28	62	5			6			
八王子市	1	3	58	130	2	1	1	9		3	
町田市			43	78	6	1	3	2		2	
西多摩	1	2	20	25	1		1	4		1	
南多摩	1	3	17	47	1	2	6	3		2	
多摩立川	2		48	65		1	2	5		3	
多摩府中	6	5	47	136	7	1	8	23		2	1
多摩小平	7	6	94	142	3	1	6	15		3	
島しょ											
東京都合計	90	63	779	1,701	84	22	64	149	1	31	4

	小児科	インフルエンザ	眼科		基幹					
	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジア 肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院
千代田		2								
中央区		2		1						
みなと		7					1			
新宿区		8		1						
文京		1								
台東		3								
墨田区	3	7							1	
江東区		17		1						
品川区		12								
目黒区		16								
大田区	3	18		1						
世田谷	1	21		1					2	2
渋谷区		1		3					1	
中野区		23								
杉並	1	23							1	2
池袋		10		1					1	
北区		2		1						
荒川区		2		1						
板橋区	1	7		1						
練馬区		9		1						
足立		30		3						
葛飾区	1	2							1	
江戸川		23								
八王子市		25		2						
町田市		7								
西多摩		6								
南多摩		17								
多摩立川	1	14								
多摩府中	2	30		2	2					2
多摩小平		25							1	1
島しょ										
東京都合計	13	370		20	2		1		8	7

# 定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数(2018年16週 現在)

## ◆ 小児科定点

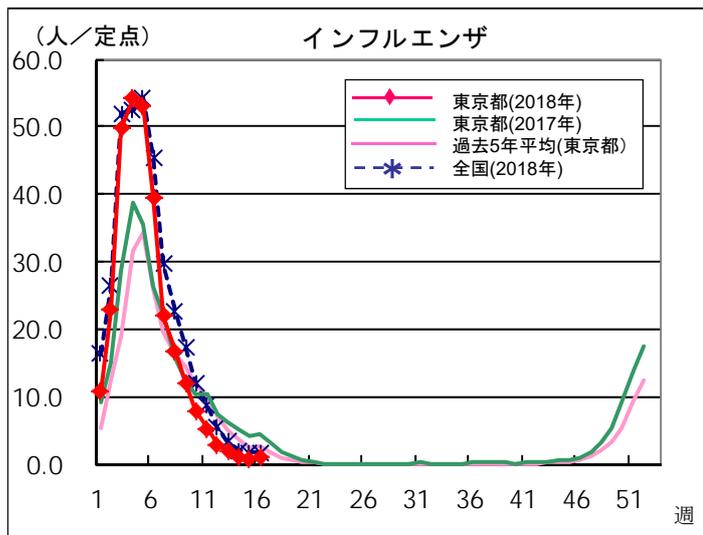




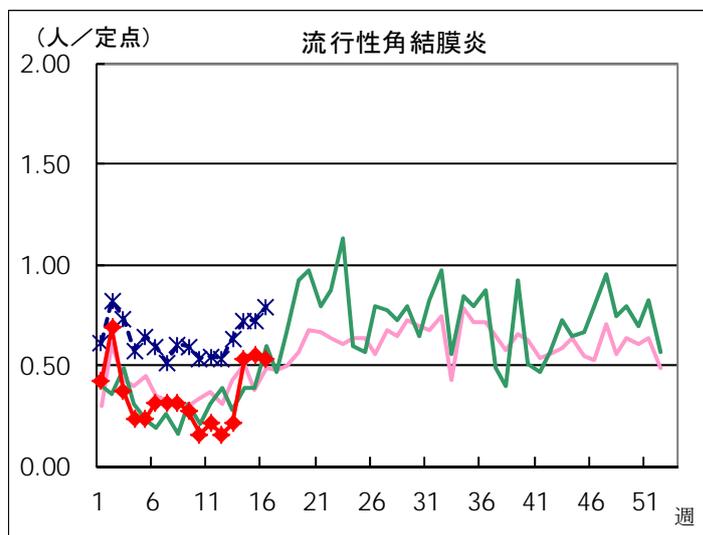
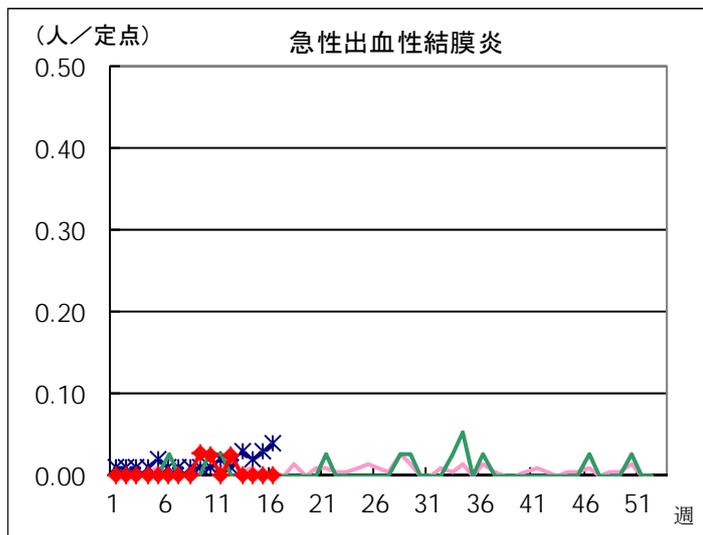
※ 東京都独自対象疾患

※ 東京都独自対象疾患

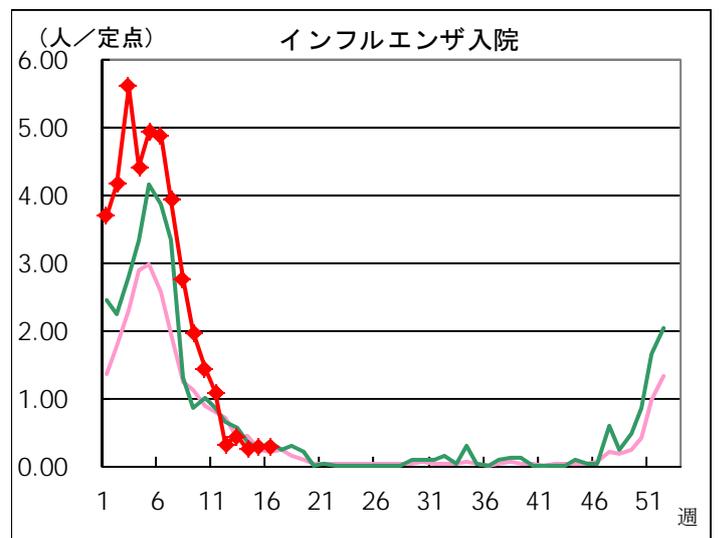
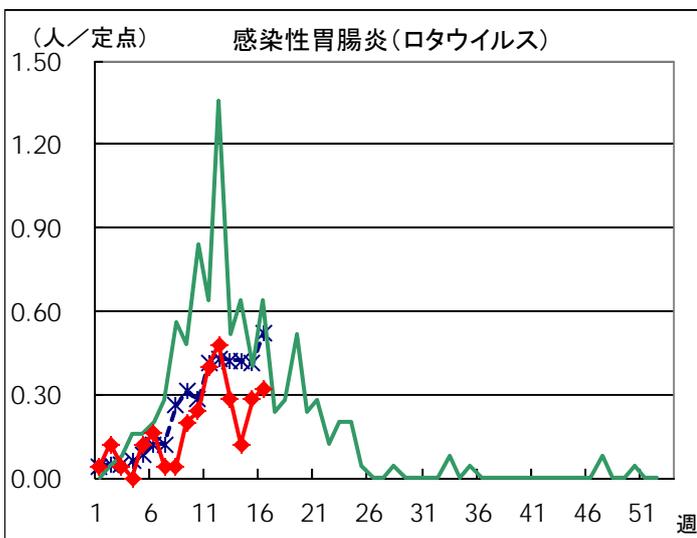
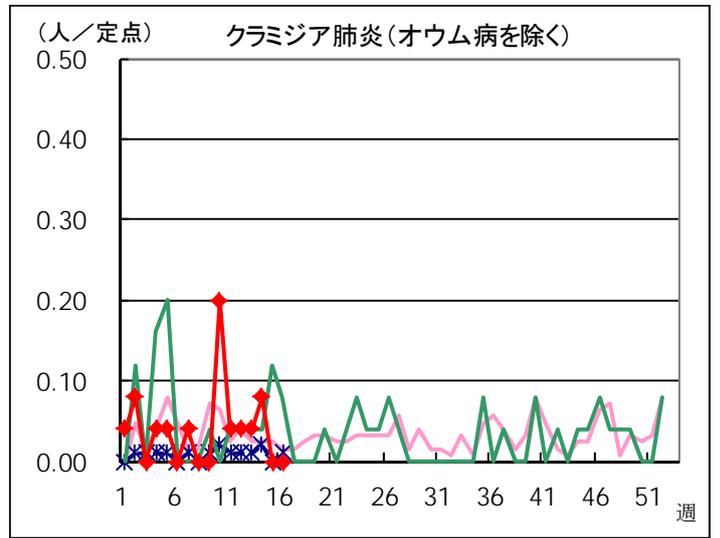
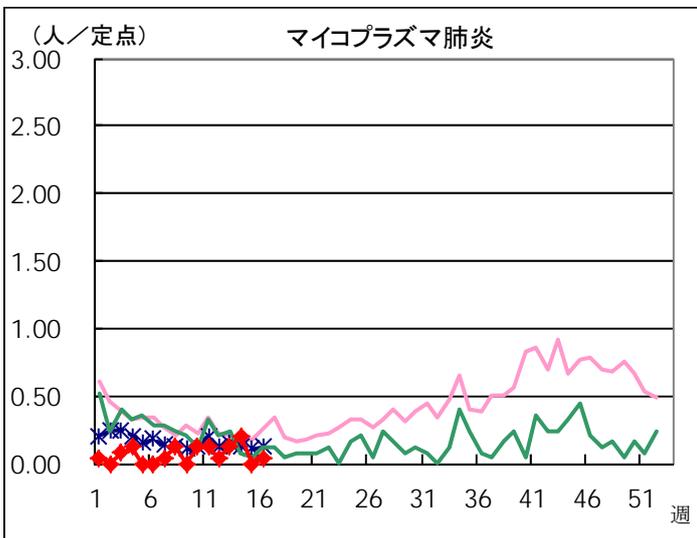
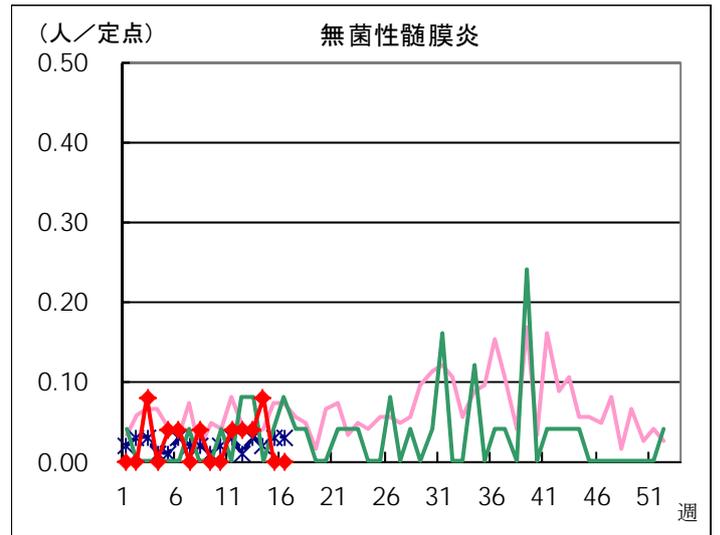
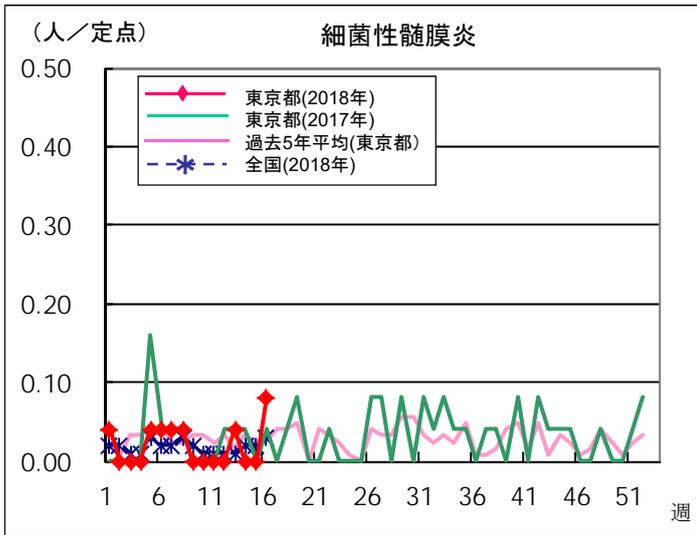
◆ インフルエンザ定点



◆ 眼科定点



◆ 基幹定点



## 定点医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況(インフルエンザウイルスを除く)

採取日	臨床診断名	年齢	検査試料	検出病原体
3/20	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	咽頭拭い液	A群溶血性レンサ球菌T-1型
3/20	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3	咽頭拭い液	A群溶血性レンサ球菌T-12型
3/24	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6	咽頭拭い液	A群溶血性レンサ球菌T-B3264型
3/25	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5	咽頭拭い液	A群溶血性レンサ球菌T-28型
3/31	不明発しん症	7	咽頭拭い液	ヒトパルボウイルスB19
4/3	突発性発しん	10M	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型
4/6	RSウイルス感染症	記載なし	咽頭拭い液	ヒトメタニューモウイルス

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型別検出件数

	AH1pdm09	AH1亜型	AH3亜型	B型
2018年13週	2		6	6
2017-2018年 シーズン累計*	106		165	252

\* 2017-2018年シーズンの開始は第36週(2017年9月4日～)

## 病原体検出情報【週別】

検出病原体	2018年							
	07週	08週	09週	10週	11週	12週	13週	14週
アデノウイルス	2	1		1	1	2	1	
コクサッキーウイルスA群								
コクサッキーウイルスB群								
エコーウイルス								
エンテロウイルス71								
その他のエンテロウイルス				1				
ライノウイルス	2		2		2	3		
ヒトメタニューモウイルス								1
単純ヘルペスウイルス								
水痘・帯状疱疹ウイルス			1					
ヒトヘルペスウイルス6型・7型	1				3	3	1	1
EBウイルス								
サイトメガロウイルス								
ムンプスウイルス								
麻疹ウイルス								
麻疹A型(ワクチンタイプ)								
風疹ウイルス								
ヒトパルボウイルスB19								1
RSウイルス						1		
ノロウイルス		1	1			2	1	
ロタウイルス		1		1		2	2	
サポウイルス				2				
インフルエンザウイルスAH1亜型								
インフルエンザウイルスAH3亜型	9	4	11	12	8	6	6	
インフルエンザウイルスB型	18	23	12	8	1	7	6	
インフルエンザウイルスAH1pdm09	2	1	2	1	2		2	
その他のウイルス								
A群溶血性レンサ球菌T-1型	1		1	2				1
A群溶血性レンサ球菌T-3型								
A群溶血性レンサ球菌T-4型								
A群溶血性レンサ球菌T-12型	3	1	1	2				1
A群溶血性レンサ球菌T-25型								
A群溶血性レンサ球菌T-28型			1					1
A群溶血性レンサ球菌T-B3264型			1	2		2		1
A群溶血性レンサ球菌その他のT型				1		1		
A群溶血性レンサ球菌T型別不能						1		
百日咳菌								
肺炎マイコプラズマ								
肺炎クラミジア								
髄膜炎菌								
B群レンサ球菌								
肺炎球菌								
インフルエンザ菌								
黄色ブドウ球菌								
大腸菌								
その他の細菌								
その他の病原体								

# 病原体検出情報 【臨床診断名別】

2018年07週～2018年14週

	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	川崎病	不明発疹	インフルエンザ	インフルエンザ様疾患	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
搬入検体数	3	7	29	19	3	2	3	10		7	1	15	139	24		2		4	1	
アデノウイルス		2		2									2	1		1				
コクサッキーウイルスA群																				
コクサッキーウイルスB群																				
エコーウイルス																				
エンテロウイルス71																				
その他のエンテロウイルス														1						
ライノウイルス		1									1	1	1	5						
ヒトメタニューモウイルス	1																			
単純ヘルペスウイルス																				
水痘・帯状疱疹ウイルス					1															
ヒトヘルペスウイルス6型・7型		1						3				5								
EBウイルス																				
サイトメガロウイルス																				
ムンプスウイルス																				
麻疹ウイルス																				
麻疹A型(ワクチンタイプ)																				
風疹ウイルス																				
ヒトパルボウイルスB19												1								
RSウイルス	1																			
ノロウイルス				5																
ロタウイルス				6																
サポウイルス				2																
インフルエンザウイルスAH1亜型																				
インフルエンザウイルスAH3亜型													55	1						
インフルエンザウイルスB型													72	3						
インフルエンザウイルスAH1pdm09													9	1						
その他のウイルス																				
A群溶血性レンサ球菌T-1型			5																	
A群溶血性レンサ球菌T-3型																				
A群溶血性レンサ球菌T-4型																				
A群溶血性レンサ球菌T-12型																				
A群溶血性レンサ球菌T-25型																				
A群溶血性レンサ球菌T-28型																				
A群溶血性レンサ球菌T-B3264型																				
A群溶血性レンサ球菌その他のT型																				
A群溶血性レンサ球菌T型別不能																				
百日咳菌																				
肺炎マイコプラズマ																				
肺炎クラミジア																				
髄膜炎菌																				
B群レンサ球菌																				
肺炎球菌																				
インフルエンザ菌																				
黄色ブドウ球菌																				
大腸菌																				
その他の細菌																				
その他の病原体																				

## <感染症豆知識>

# われわれの身近にあるマラリア

## マラリアは熱帯地域だけの病気ではない

世界三大感染症の一つであるマラリアはわが国では年間 50~100 例の報告があるが、いずれも輸入例で、6 割はアフリカ滞在中の感染である。その多くは致死性のマラリアであり、迅速な診断と治療が必要となる。

さて、昨今多くの日本人が韓国へ旅行しているが、帰国後に発熱した場合マラリアを想起する必要はあるのだろうか。熱帯病のイメージが強いマラリアだが、マラリア原虫はかつて日本全国に蔓延していた。実は韓国では、一度ほぼ排除されたマラリアが 1993 年以降、北朝鮮との非武装地帯に勤務する警備兵の間で再興し始めた。その後多くの地域に広がり、2000 年には 13,903 例の患者が報告され、2010 年にはソウル市でマラリア警戒注意報が発令された。現在は年間数百例と沈静化しているが、マラリアが常在している国であることに変わりはない。北朝鮮ではさらに深刻で、2016 年には 5,033 人の患者が発生しており、媒介蚊を通じて韓国へ運ばれている可能性が指摘されている。朝鮮半島でマラリアを媒介しているのはシナハマダラカという蚊で、患者の発生は蚊が活性化する初夏から秋にかけて集中している。この時期に韓国に出かけた患者に発熱の症状が見られた場合は、マラリアを想起する必要があると言えそうだ。

もう一つ。マラリアにはいくつか種類があって、三日熱マラリアでは根治治療をしないと再発する。韓国で感染するのはこのタイプだ。ある流行国から帰国後 1 年経ってから発熱、三日熱マラリアと診断された人がいる。この方は滞在中にマラリアの診断は受けていなかったのだが、熱があるとマラリアの自己治療をしていたようだ。世界を渡り歩いている人の中には、このような猛者が結構いる。1 カ月以内とされるマラリアの潜伏期にとらわれず、再発するマラリアの可能性についても想起する必要があるようだ。

(文責 順天堂大学医学部教授 美田敏宏)